

さくらの便り



【写真】「高谷池ヒュッテと火打山」
火打山は新潟県妙高山から北西に連なる山岳帯の一つで雷鳥生息の北限とか

「マスクを安心してはずさせてあげたい」

文科省のこの四月の発信では、入学式ではみんなマスクをして、いすといすの間は大きく離しています。同じ時期、全国の学校では、マスクは自由だとか（あたりまえのことをわざわざいうのはなぜ？）はずして歌うだとか、一体どうしちゃたんですか、という事態が始まったようです。つい一年前、子どもが理解してマスクをつけるための教材を、文科省は出していたような気が・・・。学習して思考力を身につけた子どもは多分こう理解しているでしょう。「マスクは自分を守る・周囲の人を守る・だから社会に波が来るのをおさえ、社会は活動を続けることができ、経済が回るのをたすける」と。（もちろんマスクだけじゃダメですけど）そういう子どもたちは、いま何の根拠もなく変わったマスクの扱いに、頭の中でどう折り合いをつけられるのでしょうか。最初のころは「持病のある高齢者に危険」でしたが、ウイルスは変異して、乳児をふくめ子どもが亡くなっています。きちんと社会的な手だてをとって、子どものマスクを安心してはずさせてあげたいのですが・・・。



「節分草 力強く咲く・・・」

三月の声を聞いて、すぐ秩父に春探しに出かけました!! 節分草の群落、二回目ですが、力強さも感じました。

ザゼンソウ・アヅマイチゲも・・・



近くにはロウばい満開。下には福寿草も・・・。

すっかり春を感じ、元気になりました。しかし、春の強風に運ばれている花粉にはすっかりやられて・・・しばらくは大変、大変。(春は花粉とともに∴の心境です)とにかく今できることをすぐに実行して生活をつないでいきたいと過ごしています。

(「ギャラリーさくら」と関連して見てください 係より)

「若い方々・子育てが大変な時代に」

週一回のデイサービスでお世話になっています。

今年4月12日で84才になる私が一番若くて、いらしている方々は90才代です。百才の方もみえているらしいですけどお会いしたことはありません。子育てが大変で、若い方が少ない中、こ

れからますます若い方々が大変になられるのではと心配しています。

「近詠十首」

- 「ゲン」が消え「福竜丸」がいなくなり
- 「広島ノート」の平和何処へ
- 春彼岸墓参の帰省遅れると位牌に詫びて急ぐ孫守
- 頭垂れ決まって春を告げくる黄の連翹に己を正す
- 円熟か後退なるか歳重ねキツパリ物を言えなくなりぬ
- 次々と家族倒れて家修羅場去年コロナで今年インフル
- 日を追って聞き返すこと多くなり

疎まれないかと妻の顔見る

- 桜散り季節巡れどこの地球に未だ来たらず平和の春は
- 年一度旧友と花愛で酒を汲む小さな平和を誰も壊すな
- 年ごとに四季の訪れ早まりぬアゲハ蝶舞う四月のベランダ
- 最終夜車降り来し候補者は「バーバ」と

駆け寄る幼抱き上ぐ

「安心して育てられる世の中に」

長年学校現場にいて、学校は変わったなと思っています。教師は長時間労働でブラックだとよく言われますが、教員の大変さはちがうところにあるように感じます。一番は社会が子どもを、人間を大事にしなくなったことだと思います。女性は大変な労働力と言われたのは何年前頃でしょうか。女性性は社会の労働力とするため、保育園全入、待機児童ゼロが大きく叫ばれました。それ自体は悪くないけれど、できたのは入れ物だけ、マンションの一室の園でもOK。保育の内容も、保育の施設も、保育さんたちの待遇も、何も改善されないまま、そして、保育園全入は次には学童全入となり、たくさんの方の学童ができています。

それで子どもたちはどうなったか。・・・ゼロ歳から劣悪な条件の保育園で、長時間保育を受ける。入学前後から、家に帰るのは8時、9時。夕食さえ外で食べる。親も超長時間労働で疲れはてて家に帰る。親子のゆったりした時間など望むべきもない。もしかすると、生まれてすぐから他人に育児をまかせるので、親としての感情も育ちきれていないのかもしれない。子どもの内面は他人が育ててくれると思っ



ている人も多い気がします。

それでも、子どもは「自分の親」を求めますが、求めるものは得られない。結果どうなるかというと、求められないものを学校で求めようとする。学校は集団生活の場なので、充分な個の対応はできない。結果、教室は荒れる。その対応に教員はひへいする。トラブルがあるたびに親への連絡。そのたびに逆に教師が叱られたり…。(個人情報保護のため、親同士の連絡網はなく、また、コロナのため、つながりも十分できていない)家庭の役割があるはずなのに、今、家庭は崩壊しています。子どもを大事にする社会のしくみがあれば、・・・どの親も夕方には家庭に帰り、家族団らんのできる世の中であれば、・・・一クラスの人数がせいぜい20人位で、もつとゆとりをもつて一人一人の子どもに対応できる学校であれば、・・・など、いつもいつも思います。どの子も、自分は大切にされている、と思いきや安心して育てられる世の中であれば。教師ももつと楽しく仕事ができるのではないかと、いつも思っています。

ジョンレノンの「イマジン」

今こそ皆で大合唱の時！

「アカハラのさえずり素晴らしく」

元気です。田舎行きを続けていますが、三月に入ると、冬鳥のモズ、ツグミ、ジョウビタキの姿がさっさと消えて、シジュウカラ、

アカハラのさえずりが聞こえるようになりました。特にアカハラのさえずりは素晴らしく、三大鳴き鳥（コマドリ・ウグイス・オオルリ）の一角に入りたいくらい聞きほれています。

店先にも夏野菜の苗が出始めました。ケヤキなどの芽も一日と伸び、新緑の季節も早いです。うきうきした春は嬉しい限りなのですが、私たちが子どもころよりも一か月ぐらい季節の進み方が早くなっているようです。地球温暖化の不安も心の底で実感する日々です。 4月6日



「雪の下から水仙の芽が…」

雪の下から水仙の芽が顔を出しました。陽光が差し始め、低迷していた体調も大分よくなりました。

気になるのは「日本国憲法」をふみにじる「政府の行為」。平和の危機の下、戦争につながるどんな行為も許さぬように、

物事に敏感であり続けたいと思っています。

3月23日

「話す」「聞く」やっぱりすごく大事！

やっとマスクを外せる日が来た。コロナ感染者が出始めてから感染者が増えたり減ったり、いつ終息するか待っていたが、三年目でやっと先が見えてきたようだ。いつも会っているひとに会えない、外食もできない、旅行なんでもってのほかの三年間でだった。

感染者がぐっと少なくなり、気分的に楽になり始めた二月、テレビでオーケストラのドラマを見ていたら、ティンパニー奏者の役者さんが何と息子が習っていたバイオリンの先生のお孫さん。嬉しくなりさっそく電話をかけた。実に三十年ぶりに先生の自宅に伺いお話をした。九十歳とは思えないほど若々しく、自分の生い立ち、息子たちが習っていたころの話、そして今現在もお教えていることなど、次から次へと泉が湧き出るように嬉しそうに話してくださいました。

何日かして年賀状で高齢者ホームへ入ったことを知らせてくれたワイン仲間の方の所へは自転車で訪問。夜中に救急車を呼んだことが何回もあり、近所に迷惑になると思い、自分に合うホームを探して入ったとのこと。自由に外出でき、中の生活も

快適と楽しそうに話してくれた。

また、ゴミ出しや外へでたときに道端で会って立ち話をする隣人さんとは我が家で夕食を食べながら、ご近所さんの話、マンションの苦労話など話題が噴出。以前からよっぽど話したかったようで、約四時間の会食となった。

その後電話やお手紙で「たくさんお話できて、聞いてもらってすごく嬉しかったし楽しかった。またやりましょう。」と連絡がきた。

三年間の閉塞感を体験し、生き生きと生活する基本「話す」「聞く」の大事さを私たち夫婦が学ばせてもらった今日この頃である。

「区長が変わると…」

区長が変わり、議会も役所の人たちの変化が目に見えてわかります。区民の声を全く聞かなかった前区長にイライラしていましたが、小さくてもひとつづつ変わっていくのを見るのが楽しいです。今、新区長にとって初めての予算議会であり、性の多様性が尊重される条例など議会終了まで目を離せません。

3月14日



『楽しく元気に』をモットーに

一年の時の流れがこれほど速かったことはない。一周忌を無事に終えてホッとしている。そして、来年は三回忌だつて！コロナ禍もウクライナ侵攻も政権のひどさも、すべてが日常生活に負の影響を与えていて、相乗効果でますますドツポにはまっていく感じ。全く！と腹が立つことが多く、そのたびに『いやいやいや、この心の在り様は免疫力を下げるだけだ』と思いつつ、『自分にできることをやってみよう』と我に返るのだ。

この一年で変わったこと…。まず、二つ目に入ったコーラスを復活させた。そして、昨年末には三つ目のコーラスに入団。歌詞を覚えられるかが心配だが、ま、その時になったら何とかなるだろうと、先のことは考えない（笑）。『女声の部』『混声少人数で職場の部』『混声一般』とそれぞれ違う。だからとても楽しい。二つ目のコーラス以外は放課後付き、つまり飲み会がある（別名お食事会（笑））。それにプラス、月に1回のレッスンにも参加して、計十一日分、歌を歌える日があるという。今年の全国大会は北海道。選ばれてからでは遅い。飛行機とホテルの手配はもう済ませてある。

それから、「ゆっくりのんびり楽しくやってるから」と友達に誘われて、テニス（ソフトテニス）をまたやろうかと思ひ、

見学に行った。二十五年ぶりにラケットを握ったら、ボールはネットを越さない、越してもサーブライン辺り、バックはリズムがつかめない、サーブは肩が痛いからセカンドだけ・・・全くできない自分がいたけど、それでも楽しかった。実は、両膝の手術をしたときに『もう絶対に以前のようにテニスはできない。できない自分はイヤだからテニスはやらない』とラケットは捨ててしまったのだが・・・有難いお誘いだった。輝夫もやっていたので、少しずつでいい、続けていきたいと思う。

人は亡くなるとお釈迦様のおそばに行くと、住職さんがおっしゃった。でも、輝夫にはそこら辺でフワフワ浮いてもらって、私が楽しく元気に過ごしていくのを応援してほしい。楽しいことがまだありそうだからよろしくねと、毎日線香をあげてる。

「孫育て・手伝い・・・」

昨夏、初孫が生まれ、ばあばになりました。コロナ禍の中、出生児数が80万人を下まわり少子化が進むばかりですが、それに見合った生き方を探していくしかありません。自分、子育てを手伝って過ごします。

ウクライナの現実、止めるすべが見つからないかと心配しています。ソ連！ロシア！が悪いのだろうか、支援の武器を送

るのも本当によいことなのか、疑問でなりません。戦争止めさせたいです。

「平塚らいてうの茅ヶ崎訪問」

新婦人らいてう小組で、先日、茅ヶ崎に行きました。海の近くに「太陽の郷」という老人ホームがありますが、以前は、南湖院というサナトリウムでした。そこに平塚らいてうの姉や夫が、青踏社の関係者などが入院していたこともあり、らいてうは近くの部屋を借りて住み、青踏の編集をしていたこともあったそうです。（茅ヶ崎ゆかりの人物館では丁度らいてうの企画展示をやっていたので丁寧な説明を聞いたり、住居跡、駅近くの公園に建立された「原始女性は太陽であった」の石碑を見学したりしました。



「楽しいことは遠慮せずやりたい」

済美教育センターに勤務して四月から14年目を迎えます。こんなにも長く働くとは予想もせず自分でも驚いています。いろいろな方々のお陰でこんなにも長く大好きな国語教育に長年携わってこられたのは本当に幸せだと感謝の気持ちでいっぱいです。一年間で百一回も学校に出向きました。若い先生方の授業を拝見したり、教材研究をしたりするのは私にとって至福の間です。「早く授業をしたくなりました」「国語の授業が怖くなくなりました」「子どもってものすごい力をもっているんですね」「子どもってすごい」などと言われると、「よし！わたしもがんばるぞ」と元気がもりもり湧いてくるのです。先生方は「いい授業がしたい」「もっと子どもとゆっくり向き合いたい」という思いでいっぱいなのですが、勉強をする時間もゆとりも教えてくれる人もいないので、孤軍奮闘。かわいそうになります。せめて若い先生の応援団として力になりたいと思いません。どうにかしなければ。やっぱり政治を変えないと根本的には何も変わりません。

ひよんなことがきつかけとなって、昨年から二つの合唱団に入れていただいて週に三回練習日があり、今、うんうん唸りながら練習しています。ソプラノなんですよ。声が出なかったのですが練習するうちに少しずつ出るようになりました。楽しい

です。あきらめないでがんばります。(笑)

他にもブリザーブドフラワー、ハイキングクラブ、ウォーキング、スキーなどやりたいことは遠慮せずやっています。孫もいないし、夫さんも元気で介護はなし。働いているから趣味のお金は稼いでいるしなんちゃってね。そうそう一番大事なことは健康でどこも悪いところがないことです。時々けがをして(八回も怪我をしました。頬を8針縫ったり、前歯を折ったり)夫からは「たまには家にいなさい。マグロみたいに動いていないと死んでしまうのですか。」なんて言われて飽きられています。

健康、少しのお金、家族、友だち、仕事と恵まれていることに心から感謝しています。

時々送って頂く「さくら会のお便り」もとても楽しみです。たくさん元気を頂き、「皆さんお元気だ！」と力になっていきます。これからもよろしくお願いいたします。

「被爆者人間シリーズ」を読んで

「被爆者人間シリーズ」もう一度じっくり読みました。執筆された井上さんの気持ちがよくわかりました。体験を伝えることの大切さ、重要性ですね。これをまとめた杉並光友会、ピースフォーラム実行委員会の担当された方、本当にお疲れさまでした。ピースフォーラム実行委員代表

「一度戦争になれば、なかなか止められない」

桜や桃も満開の中 卒業式も無事終わりました。ことしは普通の卒業式ができたようでほ本当に良かったです。岸田首相の突然のウクライナ訪問にあきれてしまいます。電気料金はじめあらゆる物が値上がりして、あちこちで不安の声が上がっています。節約も限界です。異次元の少子化対策といっています。が具体策がみえません。原発回帰方針、13兆円もの軍事費ではなく物価対策、消費税の減税、賃上げ、社会保障の充実など国民生活第一の政治をしてほしい。そして何よりもウクライナは一年たっても終結しません。一度戦争になれば、なかなか止められません。軍事対軍事ではエスカレートするばかりです。

中野区は教育大綱と教育ビジョンの改定素案が出されています。教育大綱は、教育委員や意見交換会などの意見をふまえ、「自分らしさを学べる」「学びの中で、人とつながる」など、とても良くなってきました。ところが教育ビジョンが一向変わっていきません。特に、目指す姿の項目の中に「家族・わが町・祖国を愛し…」という部分は問題です。パブリックコメントを出そうと思っています。この教育大綱の変化は区長が革新なつた為と思います。いま、区議会の選挙が始まりましたが、議会を変えていくことも大事だと思っています。

3月31日

「源氏物語・探求の旅・三年目」

源氏物語も三年目にはいりました。舞台を訪ねる旅も、昨年は京都三回、今年は須摩、明石、大宰府、そして来年は武生、伊勢、宇治を予定。再来年常陸、陸奥をまわり、八十歳をメドに完了させたいと考えています。平安時代という時代そのものも掌握できていくたのしみがあります。

*源氏物語絵巻「須摩」



「とんでもない時代の流れの中に…」

いつもお世話になっております。一年経つのが早く感じますが、3・11から12年、ロシアのウクライナ侵攻から1年が……。これらのことを考えると『とんでもない時の流れ』の中にあることで、ジレンマを感じます。演教連の活動に関わっていますが、今、部活動の地域移行が大きな問題になっています。公教育における部活動の教育的意義を問い直しています。

「小学生の見守り・ホームでリコーダー演奏」

月二回程、天沼小学校の朝の見守りをしています。あと、近くの老人ホームでリコーダーを吹いています。

毎日元気に過ごしていますが、ウクライナのことを想うと悲しくなります。

「学校の人手不足 実感！」

いつもありがとうございます。

この年度末の二か月、急にお休みしてしまった音楽専科のピッチヒッターとして中野区の小学校に通いました。育休を取っている人の代替がない（算数少人数の人が入る）。お子さんの病気のため三週間ほど休んでいる人のところには理科専科が入る。補教のために空き時間はない。・・・などを目の当たりにし、本当に人が足りないんだと実感しました。夜八時でもたくさんの方が残って仕事をしていると聞きました。

退職後、北多摩東退教の山のサークル「ぼうの会」に入れていただき、時々山歩きを楽しんでいます。初心者でのスタートでしたが、知らない山々を歩き、眺め、達成感を味わっています。

す。さくら会でも皆さんとお出かけできる時がくればうれしいです。

「東京大空襲のこと」

3月3日のひな祭りになると、私は3月10日の大空襲を思い出します。

私の夫は当時19才で江東深川に両親と弟の四人で住んでいました。10日の未明、警戒警報のサイレンが鳴り、「B29の大編隊が東京湾を北上中」の情報がラジオから流れました。杉山家は逃げる用意をし、外へ。すると、隣組のみんなが「杉山さんは逃げるのか！」と非難。それもその筈、帝都を皆で守る義務を負わされ、隣組で火の粉を消すバケツリレーの訓練をやっていた。でも杉山さんが逃げるならとみんな逃げ出した。実際一瞬の内に火の海となり、焼けた死体であの大きな隅田川がいっぱいになったのでした。一夜あけて、となり組の人達は無事戻ってきましたが、一人亡くなりました。それは班長の方で責任上残った為でした。ホントにむごいことです。他のとな



り組は全滅でした。

夫の父は、仕事の関係で、海軍上層部から「日本は負ける」と知らされていました。一般は、勝利すると信じこまされていたわけです。3月10日の教訓で、以後はいち早く逃げたので、死者は減ったということです。とにかく、戦争になると、隣同士がんじがらめに監視し合い、すぐ「非国民呼ばわり」され、窒息しそうなフンイキとなるのです。

今、岸田政権はとんでもない大軍拡を計画。

戦争は断じて許さない！

「さくら門・けやき門・なつめ門」

「さくら会だより」ありがとうございます。

組合事務所があるところは杉九小の桜門があります。それで「さくら会だより」になったのかと思っています。杉九小の東側は「なつめ門」もあります。南側の門は何というのか。「けやき門」だったかな。調べて見てください。

*門の名前は今井さんの記憶の通りです。私も杉九小の旧職員ですから覚えていきます。 Y・K

*さくら会の名付け親は、和田中学校の廣畑環さんでした。再雇用職員部の集まりのとき、付けた名前前で、杉退教の愛

称として引き継がれています。「乳母桜なんて言わないでよ。」も廣畑さん。「支部事務所も杉九小の桜の古木の下にあるから・さくら会・いいね。賛成！」と「さん。

下校する子どもに聞いてみたら「知らない。」……時が経ち、教職員も変わると愛称で呼ぶことも少なくなるのでしょうか。杉九小の伝統であってほしいですよ。昔は北の門からさくら門へ、公道なみに地域の人も通り抜けていましたが、一九九七年の神戸児童殺害事件を機に、どこの学校の門も閉鎖されてしまいました。この桜の木も太い支柱に支えられて頑張っています。」「」

「伊豆大島でお待ちしています」

今大島は椿祭りで、にぎわっています。4月27日までジェット船往復が一万一千円です。ただし大島から東京へは午前便に限りですが。最速105分で着きます。

母たちの見守りも介護もあるのですが、この機会を逃したらガイドの資格を取ることではできなくなる、と決断しました。そういうわけで、時々ガイドという肩書が増えました。

とにかく三原山に時間があれば登るように言われています。というのも登るたびに山は違う顔を見せてくれるからです。もちろん大島は三原山だけではありません。地層が見事な大切

断面にも日々刻々変化が見られます。ガイド仲間では今あることが人気になっています。地層はバウムクーヘンだけではありません。日々発見があるので情報は更新されます。

(「ギャラリーさくら」もご覧ください)

どうぞガイドをリクエストして大島に来てください。この島には歩くたびに自然への気づきがあります。

私は大島ジオパークガイドに登録しています。
2月25日 発信



「私の近況を川柳で…」

「物価高下がるは年金記憶力」

「歩こう会三年経って歩ける会」

共に新聞に載りましたが、共にわが身に

降りかかってくる、困ったものです。

「いつの世も戦命する人死なず」

「先陣をきって維新の助け舟」

「引き金に手をかけ平和は守れない」

「カニカマの足一本減の物価高」



「軍拡は昔供出いま増税」

「停戦は人の英知の見せどころ」

「腰痛は我が家の階段北穂にす」

「ウクライナ豆まきとどけロシア外」

「還暦は振り向き見れば青年部」

「落選の一句ことさら愛おしき」

川柳読ませてもらいました。

兄の、島の（私の故郷は伊豆七島の新島です）同級生が川柳を作っていて、それを兄が「川柳集」にまとめていました。

島から送られてくるたびに義姉と二人で読んで笑い転げていました。

ちなみに、私の住まいの四階の奥さんも、川柳に熱が入っています。

酒田のかんぼの宿の宿の入浴場に向かう通路にはずつと川柳が張り出されています。

腰痛もどうぞお大事にしてください。

秋には「さくら会」の紅葉狩りを楽しみにしています。ご一緒できますように。

都教組杉並FC2、見てみます。

3月21日

元のページに戻すには パソコン画面上部の ← をクリックします。



「ギャラリーさくら」卓上カレンダーとして活用ください。
関連：杉退教たより 5月号：6ページをご覧ください。

【編集後記】

まずはじめに、今月号の発送が遅れてしまった事をお詫びします。ブックレットの編集、紙上ギャラリーの印刷などに時間がかかってしまいました。そうした中でも、近況の打ち込みをKYさん、KKさん、KYさんが担当してくださり大助かりでした。

今回、近況やエッセイを投稿いただけなかった方がいらっしゃいます。5・6行の文章でもよいので、杉退教あてに送ってください。「7月号たより」などに掲載したいと思います。論評や旅の報告、写真や詩歌なども大歓迎です。それではみなさん、元気にがんばりましょう。

杉並区退職級職員の家（杉退教・さくら会）

167-0031 杉並区本天沼1-2-19 都教組杉並支部 内

Tel 03-3399-8719 fax 03-3399-3855

e-mail tokyoso_suginami@ybb.ne.jp

ホームページ <http://tokyousosuginami.web.fc2.com>

または 都教組杉並FC2 で検索

